

大学生のスポーツ実施と価値意識に関する一考察

小泉昌幸* 渋谷崇行** 伊藤巨志***

(平成15年10月31日 受理)

A Study on Sport Participation and Value Consciousness in College Students

Masayuki KOIZUMI* Takayuki SHIBUKURA** Kiyoshi ITOH***

The purpose of this study is clarifying about the relation of the value consciousness and sport action about a college student's sport. In order to carry out this study, a questionnaire was administered to 269 first-year students.

The main results were as follows:

1. All the students had the same value consciousness about the sport.
2. The students who were playing the sports had higher value consciousness about the sport from the students who were not playing the sports.
3. All students accept value about "physical strength" and "health."
4. The item of "skill" and "pleasure" is a value item which can feel a merit direct.
5. The students who think that they want to play sports in the future understand the character of the value about a sport.

Key words: students' sports participation, Value Consciousness

1. はじめに

上杉は、「スポーツ行動を分析する1つの方法は、行動の背後にあるスポーツの価値意識を知ることである。」⁵⁾と述べている。現代社会においては、スポーツの世界でも価値意識が多様化してきている。そしてこの意識の分化は、スポーツの高度化と大衆化という方向にあらわれている。スポーツの大衆化とは、スポーツ人口の増大という量的側面と、スポーツの領域・行為目的・行為方法の分化という質的側面を包括した現象である。⁶⁾また、スポーツの高度化とは、スポーツにおける技術的層化現象である。⁶⁾つまり現代社会においてスポーツの高度化はスポーツの大衆化における多様化の一面としてとらえることができる。

スポーツ行動は、意識的であれ、無意識的であれ、価値の選択に基づく行動であり、行為者の内部における価値選択のメカニズムを経て発現される行動である。⁶⁾つまりスポーツの多様化は、個人や集団がスポーツを実施するにあたり、多様な価値選択を行う結果あらわれる現象と考えることができる。このスポーツの多様化の問題を解決するために、スポーツ実施者の価値選択過程を明らかにすることが必要になってくる。

*体育学 助教授 **体育学 助手 ***県立新潟女子短期大学

スポーツの価値、価値意識を明確に把握するにあたり、まず価値の概念、価値意識の概念について明らかにしておきたい。

価値とは、「主体の欲求を満たす、客体の性能」である。すなわち、価値とは、第一に人々の欲求に最終的な基礎をおくものであって、なんらかの神秘的なもの、超経験的なもののうちに基礎を持つものではない。第二に、主体の欲求の相関概念であって、対象自体に内在しているものではない。第三に、価値は主体の属性ではなく、「客体側の」属性である。第四に、価値とは客体それ自体ではなく、客体の「属性」（性能、性質）である。³⁾

つまり価値とは、主体（個人であれ集団であれ）の欲求を満たす限りにおいて「のぞましきもの」the desirableではなく、「のぞましき」desirability（その程度）であると定義している。³⁾

価値意識とは、ある主体が世界の中のさまざまな客体に対して下す価値判断の総体である。すなわちそれは、客体の側の属性である「価値」の主体側の対応物である。つまり、ある客体の属性を望ましいと考える主体の意識であると定義している。³⁾

このように定義された価値及び価値意識の概念に関する基本的な立場に従い、スポーツの価値及び価値意識について考えてみると、スポーツの価値とは、「主体に対するスポーツの望ましい属性」と定義される。つまりスポーツの価値とは個人または集団の欲求を満たすことで望ましいとされるスポーツの性能、性質であるといえる。また、スポーツの価値意識とは、個人または集団がスポーツを望ましいと考える意識であるといえる。

スポーツの価値に関して多くの研究者が上記の概念をもとに明らかにしている。

川辺は、「日本人のスポーツ観の要素を構造的にとらえ、その要素に日本社会の価値体系がどのようにくいこんでいるのか、その要素がどのような意味を持っているのかを中心に明らかにし、現代日本人のスポーツ観の構造モデルを構築しようとした。その結果、日本社会にあった体育やスポーツの歴史的、社会的事実を基礎に8つの要素を抽出し、それらが日本人がスポーツ行動に取りかかる際の引き金となっていると指摘している。」¹⁾

太田らは、「主体性形成を組み込んだ社会化理論の必要性を述べ、価値論を理論的根拠としてスポーツの価値意識に基づく選択、つまりへのスポーツ参加をkey概念とすることで主体性にたったスポーツへの社会化について明らかにしている。」⁴⁾

北村らは、「スポーツに対する価値意識を大人と子供の間で比較分析し、子供は、感情や感覚に係わり、かつ事実確認が容易なスポーツ価値を支持するのに対し、大人は、人間相互の望ましさに係わる抽象的、理念的な特性を持つスポーツ価値を支持していることを明らかにしている。」²⁾

上杉は、「現実型としてのスポーツ意識を把握し、その価値意識の分化に関連する要因を分析することが必要であるとし、そのために日本人のスポーツ価値意識を分析する手がかりとして、大学生のスポーツ価値意識がどのように分化しているのかを明らかにし、そこに見られるパターンに関連する要因を分析している。その結果、同世代集団である大学生を対象としたために、スポーツ価値意識と年齢との関連が明らかになったとしている。また、生活目標、努力意識、道意識とスポーツ価値意識とが密接に関連していることも明らかにしている。」⁵⁾しかし、大学生のスポーツ価値意識と行動の関連についてはふれて

いない。

そこで本研究においては、大学生のスポーツ価値意識とスポーツ行動の有無との関連について明らかにすることである。

2. 研究の方法

大学生308名を対象として、2003年7月に質問紙法による調査を行った。調査の方法は、授業時間を利用し、集団記入の形式で、調査者が説明をしながら実施した。記入漏れ、記入ミスがあったものを除き、有効回答数269、有効回収率87.3%であった。

3. 結果と考察

Table 1は、スポーツに関する価値意識について操作的に12項目であらわし、それぞれ

Table 1 Mean of value items

Variable	Mean	
	Played sports	Not played sports
Physical strength	4.61	4.44
Health	4.47	4.28
Spiritual strength	4.37	3.98
Humanity	3.82	3.41
Sociality	3.75	3.37
Skill	4.50	4.30
Pleasure	4.39	4.13
Record	3.69	3.31
Participation in competition	3.86	3.47
Attraction	3.37	3.22
Leadership	3.59	3.46
Win	3.98	3.72

の価値項目に対して「非常に価値を認める」を5、「やや価値を認める」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり価値を認めない」を2、「ほとんど価値を認めない」を1とした5段階評定により回答を求め、大学入学後スポーツ（体育授業以外で）を行った学生の平均値を示したものである。価値支持傾向を見た場合、5段階評

定で4.0以上の高い値を示したものは、「体力づくり」「健康」「精神力」「技術の向上」「楽しさ」の5項目であった。また、大学入学後スポーツ（体育授業以外で）を行わなかった学生の平均値で4.0以上の高い値を示したものは、「体力づくり」「健康」「技術の向上」「楽しさ」の4項目であった。この結果より、スポーツという行為の持つ価値について、大学入学後スポーツを行った学生も行わなかった学生も同様の価値意識を持っていることが明らかになった。スポーツは、健康・体力作りの手段として、また、スポーツの技術も楽しみながら修得できるものと考えているといえよう。

両者に大きな差はみられなかったが、12項目すべてにおいて大学入学後スポーツを行った学生のほうが、スポーツを行わなかった学生より平均得点については高い値を示した。これは、スポーツ活動をなんらかの形でも行っている学生は、スポーツの価値を認識し、

それがスポーツ活動の実践の為の動機になっているのではないかと考える。

スポーツを自ら経験することにより、その価値をより多く実感していると推察する。スポーツの持つ望ましいとされる性能、性質は、大学入学後スポーツを行った学生の欲求を満たすことができたのではないかといえる。また、それら学生の意識のなかには、スポーツを望ましいと考える価値意識を持っているものといえる。

Table 3は、大学入学後のスポーツ実施とスポーツの価値との

関連についてみたものである。 χ^2 検定の結果有意水準5%水準の優位な関連を持つものは、「技術の向上」「楽しみ」「成績・記録」であった。

この結果より、この3項目は、スポーツをすることによって直接的にそのメリットを感じることでできる性質を持つ価値項目であることを示している。

次に Table 4は、大学入学後スポーツを行った学生と行わなかった学生の価値項目の単純集計である。「非常に価値を認める」を5、「やや価値を認める」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり価値を認めない」を2、「ほとんど価値を認めない」を1の5段階評定であらわしている。この結果とも合わせて考えてみることにする。「やや価値を認める」も含めて85%をこえる支持率を持つ「体力づくり」「健康」の項目が χ^2 検定で有意な差が見られなかったが、これは、スポーツを実施している学生も、実施していない学生も同程度にその価値を認めているといえる。つまり、この2つの項目は、一般化された価値であることを示している。そしてこの2つの具体的価値を媒介として初めてスポーツ参加に学生の意識を向かわせることができるのではないかといえる。

Table 5は、将来スポーツを行いたいと考えている学生とスポーツの価値の関連についてみたものである。その結果1%水準で「リーダーシップ」、5%水準で「体力づくり」「健康」「精神力」「人間性」「社会性」「技術の向上」「楽しみ」「大会出場」「勝利」の項目に関連がみられた。

上記の10項目に関連がみられたということは、将来スポーツを行いたいと考えている学生は、スポーツの価値というものを十分に認識し、スポーツの価値の性質を理解しているものと考えることができる。これらの学生に対しては、部活動や体育授業の場においてスポーツの特性に十分親しむことのできるような配慮が、教員や指導者には必要であると考える。

Table 3 Sport participation in the present and value-orientation

Variable	Chi-square	Significance
Physical strength	5.29	
Health	5.25	
Spiritual strength	16.10	
Humanity	18.54	
Sociality	9.85	
Skill	10.05	*
Pleasure	10.38	*
Record	12.94	*
Participation in competition	8.40	
Attraction	2.62	
Leadership	6.59	
Win	6.19	

* p<0.05

Table 4 Sport participation in the present and value-orientation

Variable	Group	Measure(%)				
		1	2	3	4	5
Physical strength	Played sports	0.0	1.1	4.4	26.9	67.6
	Not played sports	1.1	1.1	9.2	29.9	58.6
Health	Played sports	0.0	0.5	9.3	32.4	57.7
	Not played sports	1.1	1.1	12.6	39.1	46.0
Spiritual strength	Played sports	1.1	2.2	12.6	26.4	57.7
	Not played sports	0.0	5.7	26.4	32.2	35.6
Humanity	Played sports	4.4	2.2	29.7	34.1	29.7
	Not played sports	6.9	12.6	33.3	33.3	13.8
Sociality	Played sports	2.2	6.6	25.8	44.5	20.9
	Not played sports	4.6	11.5	36.8	36.8	10.3
Skill	Played sports	0.0	2.2	9.3	24.7	63.7
	Not played sports	2.3	0.0	14.9	31.0	51.7
Pleasure	Played sports	1.1	1.6	12.1	27.5	57.7
	Not played sports	0.0	2.3	21.8	36.8	39.1
Record	Played sports	5.5	8.2	27.5	29.1	29.7
	Not played sports	4.6	16.1	34.5	33.3	11.5
Participation in competition	Played sports	7.1	4.4	18.7	35.2	34.6
	Not played sports	12.6	5.7	21.8	41.1	18.4
Attraction	Played sports	9.3	7.7	39.9	26.4	18.7
	Not played sports	11.5	5.7	46.0	23.0	13.8
Leadership	Played sports	6.6	7.1	28.0	37.4	20.9
	Not played sports	8.0	4.6	41.4	25.3	20.7
Win	Played sports	2.2	5.5	20.9	35.2	36.3
	Not played sports	3.4	4.0	32.2	35.6	24.1

Table 5 Sport participation in the future and value-orientation

Variable	Chi-square	Significance
Physical strength	16.32	**
Health	19.96	**
Spiritual strength	23.39	**
Humanity	24.37	**
Sociality	16.17	**
Skill	33.36	**
Pleasure	32.03	**
Record	4.38	
Participation in competition	22.54	**
Attraction	5.37	
Leadership	9.85	*
Win	22.63	**

* p<0.01

** p<0.05

しかし、大きな差はみられなかったが、12項目すべてにおいて大学入学後スポーツを行

4. まとめ

本研究は、大学生のスポーツ価値意識とスポーツ行動の有無との関連について明らかにすることであった。

その結果、以下のことが明らかになった。

1) スポーツに関する価値については、大学入学後スポーツを行った学生も、大学入学後スポーツを行わなかった学生も同様の価値意識を持っていることが明らかになった。

った学生の方が、スポーツを行わなかった学生より平均得点については高い値を示した。これは、スポーツを行っている学生の方がスポーツの価値を認識し、それがスポーツ活動の実践の動機になっているといえる。

2) 大学入学後のスポーツ実施とスポーツの価値との関連がみられたのは、「技術の向上」「楽しみ」「成績・記録」であった。この3項目は、スポーツをすることによって直接的にそのメリットを感じることでできる性質を持った項目であるといえる。また、「体力づくり」「健康」の項目について有意な差がみられなかったのは、スポーツを行っている学生も、行っていない学生も同程度にその価値を認めているといえる。つまり、この2項目は、一般化された価値であることを示している。

3) 将来スポーツを行いたいと考えている学生は、スポーツの価値というものを十分に認識し、スポーツの価値の性質を理解しているものと考えられる。これらの学生に対して、教員や指導者は体育授業や部活動の場において彼らのニーズに対応できるだけの指導力を備えることが重要であると考えられる。

学生が認識するスポーツの価値の高まりは、スポーツが生活や生涯の価値と深く関わりはじめたことの表れであると考えられる。多様なスポーツの楽しみ方は、余暇生活の中でのスポーツの位置づけの重要性をあらわしている。将来にわたり、スポーツが暮らしに溶け込むようなスポーツライフをかたちづくっていかせるためにも、学生が既に持っている価値意識を常に強化させることが重要であると考えられる。

References

- 1) 川辺光。「日本社会の価値体系と日本人のスポーツ観の構造」。体育社会学研究会編。体育社会学研究 10。道和書院：東京 pp. 149-167. 1981
- 2) 北村薫。太田雅夫。「スポーツにおける社会化の研究」日本体育学会第 32 回大会号：1981
- 3) 見田宗介。栗原彬。田中義久編。「社会学事典」。弘文道：東京。Pp144-150. 1992
- 4) 太田雅夫。北村薫。斉藤定雄。「「スポーツの社会化」研究の方向に関する一考察」日本体育学会第 31 回大会号：207. 1980
- 5) 上杉正幸。「大学生のスポーツ価値意識のパターンとその関連要因の分析」。体育・スポーツ社会学研究会編。体育・スポーツ社会学研究 6。道和書院：東京 pp. 195-213. 1987
- 6) 上杉正幸。「スポーツ価値意識論の方向性」。体育社会学研究会編。体育社会学研究 6。道和書院：東京 pp. 193-211. 1977